

レーザスキャニング装置評価試験

従来の回転精度評価システムの問題点

- 回転ムラ、短周期ジッタ、長周期ジッタをTIAとカウンタで別々に測定。出力信号波形はオシロスコープにて観測
- 判定はGP-IB経由でデータをそれぞれから取り込みPCにて判定。
- データ収集&解析に時間がかかり、タクトタイム短縮に限界

● 高速デジタイジング性能

- 最高4GS/s サンプリング速度、最高2GHz周波数帯域
- ロングメモリ 最大2Gポイントデータ取得可能

● 高速データ処理&転送

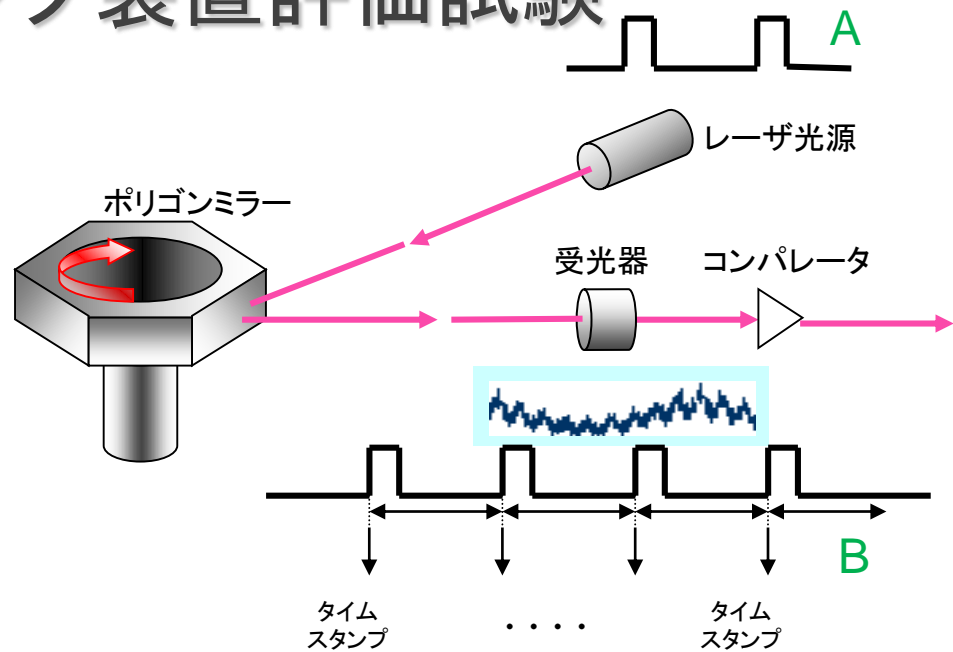
- 3GB/sでPCIにデータ転送、従来のオシロスコープの200倍以上の転送能力
- 最小デッドタイム350ns(オシロスコープの約10倍短縮)による高速イベント連続捕捉

● TTI機能 (トリガ間隔の時間測定)

- トリガの発生毎にタイムスタンプ(13ps分解能)を記録。シーケンシャルモードとの組合せでTIAおよびカウンタと同等測定可能
- 論理トリガ機能により、入出力(A→B)のタイミング測定可能
- デジタイザ1台による波形とタイミングの同時測定により、相互関連解析を容易に実現

[展開できるアプリケーション・市場]

- ✓ 回転体装置のタイミング検査
- ✓ 半導体の入出力信号の波形とタイミングの同時測定



U5303A他

